ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　123　号
２０１９．３．10

目　次

2019年度　北海道考古学会総会・研究大会の開催について……1
2019年度　総会について……1
学会運営委員の改選―運営委員の推薦について……1
監査委員の改選―監査委員の推薦について……3
会誌編集委員の改選―編集委員の推薦について……3
2019年度研究大会「北海道島の成立、自然災害と考古学」……5
2018年度　遺跡調査報告会の実施報告……5
北海道胆振東部地震募金の結果……6
斎藤　傑さんの逝去……6
事務連絡……7
総会出欠票返信のお願い……7
住所・所属変更について……7
月例研究会のお知らせ……7
会費納入についてのお願い……8

2019年度　北海道考古学会総会・研究大会の開催について

2019年度　総会について

2019年度総会を研究大会の昼食休憩前に、同一会場にて開催します。総会は会員が会の運営に直接参加する重要な機会であり、また今回は運営委員の改選期にあたりますので、多くの会員の出席を期待します。なお、やむを得ず欠席される予定の会員は、４月10日（水）（事務局必着）までに必ず委任状を提出されるようお願いいたします。

日　時：2019年５月11日(土)　11：10～12：00
会　場：北海道大学学術交流会館　２階　講堂（札幌市北区北８条西５丁目）

学会運営委員の改選ー運営委員の推薦についてー

北海道考古学会会則第６条、委員および委員会規則第２条、および北海道考古学会委員公募細則に基づき、2019年度から2020年度の北海道考古学会運営委員を下記のとおり推薦願います。

規則第５条および第６条の規定により、地域委員10名、運営委員16名以内が会員の推薦を受け、総会で選出されます。北海道考古学会地区別会員名簿から５名までの会員を運営委員、所属する地区より１名を地域委員として、同封のハガキまたは同様式に準じた封書等にて、事務局までご推薦ください。

１．推薦期間　2019年４月10日(水)（事務局必着）まで
２．推薦対象外会員
　会則及び規則により委員となることの出来ない会員は次のとおりです。この会員の推薦は無効となります。
　　地域委員　　小川康和（第３地域）、大谷茂之（第４地域）、猪熊樹人（第８地域）
　　冨樫那美（第９地域）
　　運営委員　　菅野修広、坂梨夏代、永谷幸人
３．再任対象会員

現委員のうち、会則および規則により、継続再任が出来る会員は次のとおりです。
地域委員　渡邊つづり（第５地域）、乾　茂年（第６地域）、平河内毅（第７地域）、
笹田朋孝（第10地域）
運営委員　臼杵　勲、石川直章、守屋豊人、松田宏介、富永勝也、長沼正樹、鈴木建治

なお、委員選任に関する規則を下記に抜粋掲載します。

会則　（関係部分）
第６条　本会に次の役員をおきます。
(1) 会長　　１名
(2) 副会長　　１名
(3) 地域委員　10名以内
(4) 運営委員　16名以内
(5) 監査委員　２名
2　地域・運営・監査委員は、会員の推薦を得て総会で選出し、正副会長は委員の互選により決定します。
3　会長は本会を代表し、副会長は会長を補佐します。地域委員は地域を代表し運営委員は本会の運営実務を担当し、監査委員は本会の会計を監査し総会に報告します。
4　委員の任期は１期、２ヶ年とします。ただし、２期、４ヶ年までの継続再任が出来ます。

北海道考古学会委員公募細則
（目的）
第１条　この細則は、北海道考古学会規則第１号「委員及び委員会規則」（以下、規則という。）２条で規定する委員の選出方法について定めることを目的とする。
第２条　委員は会員の推薦により委員会が候補者を選定し、総会で決定する。
（推薦）
第３条　会員は、「地域委員」を規則第４条別表１の所属する地域に限り、その所属する地域の会員の中から１名を推薦できる。また「運営委員」を会員の中から５名を限度に推薦できる。
（推薦様式）
第４条　会員からの推薦は、様式１にて行う。封書、葉書およびFAXにて受け付ける。
（委員選出）
第５条　委員選出の手続きは次のように行う。
1）公　示　　文書、だより等で総会の２ヶ月以上前に。
2）受　付　　総会の２ヶ月前から１ヶ月前まで事務局で。
3）集計審査　　受付終了直後、事務局で。
4）候補者選定　（委員会決定）総会直近の委員会で。
5）候補者公開　総会開催日までに。
6）委員選出　　総会議決。
（候補者選定）
第６条　会員推薦に基づき委員会での候補者選定は次のように行う。
1）地域委員　イ審査　被推薦者が会員で所属地域居住者であること。委員辞任後、２ヶ年以上経過した会員であること。
ロ集計　地域、被推薦者毎に。
ハ候補者選定　地域毎に最大数の推薦を得た会員より順次本人の承諾を得て、１名を選定する。
2）運営委員　イ審査　委員辞任後、２ヶ年以上経過した会員であること。
ロ集計　被推薦者毎に。
ハ候補者選定　大数の推薦を得た会員より順次、本人の承諾を得て、定期改選時は16名以内、臨時改選時は欠員数を選定する。

委員および委員会規則　（関係部分）
（選出方法）
第２条　委員は、会員による推薦などの公募手法により候補者を選出し、総会で決定する。
（任期）
第３条　委員の任期は１期、２ヵ年とする。ただし、２期、４ヵ年までの継続再任ができる。
（区分）
第４条　委員は、別表１に定める地域を代表する「地域委員」と実務を担当する「運営委員」とに分かれる。
（定義）
第５条　地域委員の定数は、別表１に定める地域毎に１名とする。ただし、第１地区および第２地区からは選出しない。運営委員は別表２に定める業務を担当し、16名とする。

第５条　別表１　地域委員選出地域表

地区名	所属範囲
第１地区	札幌市
第２地区	石狩管内
第３地区	後志管内
第４地区	渡島桧山管内
第５地区	日高胆振管内
第６地区	空知上川留萌宗谷管内
第７地区	網走管内
第８地区	十勝釧路根室管内
第９地区	東北地方管内
第10地区	本州地区（東北地方を除く）管内

別表２　運営委員業務担当表

業務名	業務内容	定数
会長	会代表、委員会議長	1
副会長	会長補佐	1
総務	総会開催、会庶務業務	２以内
会計	会計事務	２以内
会誌	編集委員、会誌発行業務	2
だより	だより発行業務	２以内
研究会	研究大会、月例研究会業務	２以内
見学会	遺跡見学会業務	２以内
報告会	遺跡発掘調査報告会業務	２以内

監査委員の改選ー監査委員の推薦についてー

会則第６条の３の規定に基づき、2019年度から2020年度の「監査委員」を下記のとおり推薦願います。北海道考古学会地区別会員名簿から、２名までの会員を監査委員として、同封ハガキまたは同様式に準じた封書等にて、事務局までご推薦ください。

１．推薦期間　2019年４月10日（水）（事務局必着）
２．推薦対象外会員
　現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来ない会員は次のとおりです。この会員の推薦は無効となります。
　　工藤義衛
３．再任対象会員
　現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来る会員は次のとおりです。
　　角田隆志

会誌編集委員の改選ー編集委員の推薦についてー

会則第９条の３および北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱（以下「要綱」）２の１の規定に基づき、2019年度から2020年度の「会誌編集委員」を下記のとおり推薦願います。会誌編集委員会は、会員の中から推薦された５名（１号委員）と、運営委員会の会誌担当委員（２号委員）により構成されます。北海

道考古学会地区別会員名簿から、５名を会誌編集委員として、同封ハガキまたは同様式に準じた封書等にて、事務局までご推薦ください。
　なお、委員への委嘱は会長が行います。

北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱　（関係部分）
２．組織
　１）　編集委員会は、会員の中から推薦された５名（１号委員）と運営委員会の会誌担当委員（２号委員）２名との７名の委員により構成され、北海道考古学会会長が委嘱する。
　２）　編集委員会に編集委員長および副編集委員長各１名を委員の互選により置く。
　３）　編集委員の任期は運営委員に準ずる。

１．推薦期間　2019年４月10日（水）（事務局必着）
２．推薦対象外会員
　　現委員のうち、要綱により継続再任が出来ない会員は次のとおりです。
　　該当者なし
３．再任対象会員
　　現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来る会員は次のとおりです。
　　高倉　純、手塚　薫、三浦正人、内山幸子、荒山千恵

委員推薦様式

2019 年度 北海道考古学会 総会出欠票　（2019 年４月 10 日必着）

定期総会　：　出席　欠席
研究大会　：　参加　不参加

欠席の場合は下記の委任状にご記入ください。

委任状
私は、2019 年度北海道考古学会定期総会の議決について、議長に一任します。　2019 年　月　日
会員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

■学会運営委員の推薦　2019 年４月 10 日必着。

北海道考古学会 様
・「地域委員」推薦会員名＿＿＿＿＿＿＿＿氏
・「運営委員」推薦会員名
1＿＿＿＿＿＿氏　2＿＿＿＿＿＿氏
3＿＿＿＿＿＿氏　4＿＿＿＿＿＿氏
5＿＿＿＿＿＿氏
・「監査委員」推薦会員名＿＿＿＿＿＿＿＿氏
＿＿＿＿＿＿＿＿氏
私は上記のとおり推薦します。
2019 年　月　日
会員名＿＿＿＿＿＿住所＿＿＿＿＿＿＿＿

2019年度　研究大会「北海道島の成立、自然災害と考古学」

地球規模で展開される大地の変動、特に東アジアの地質学的な研究をもとに、北海道島におけるホモサピエンスが遭遇した自然災害史を検証する。あわせて、地質学と自然災害科学、考古学との関りから、北海道における自然災害への適応について理解を深めることを目的とする。

北海道では平成30年９月６日に北海道胆振東部地震が発生し、私たちの生活は大きく揺らいだ。今回の大会では地質学、自然災害科学・防災学、考古学の各分野から、近年の災害研究の成果を紹介して頂き、北海道における自然災害の発生構造を知り、先人の経験から学び防災意識を高める基盤研究としたい。

日　時：2019年５月11日（土）　10：00～16：50
会　場：北海道大学学術交流会館　２階　講堂（札幌市北区北８条西５丁目）
テーマ：「北海道島の成立、自然災害と考古学」
内　容：９：30　　開　場
10：00～10：10　開会挨拶　講師紹介
10：10～11：10　大津　直氏（北海道立地質研究所）
「北海道島の成立とその地質基盤」
11：10～12：00　北海道考古学会総会
12：00～13：00　昼休み
13：00～13：15　北海道考古学会賞・奨励賞受賞式
13：15～14：15　高橋浩晃氏（北海道大学）
「北海道の地震津波噴火の災害史」
14：15～15：15　青野友哉氏（伊達市教育委員会）
「北海道における災害考古学の可能性」
15：15～15：25　休　憩
15：25～15：55　宗像公司氏（北海道教育庁）
「東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護－北海道からの対応－」
15：55～16：25　葛西智義氏（元深川市教育委員会）
「東日本大震災からの復興、陸前高田市への派遣協力」
16：25～16：30　休　憩
16：30～16：50　討　論
16：50　　閉会挨拶

※発表のタイトル及び順番は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。
※資料集を1,500円で販売します。
※会員の他、道民カレッジ受講生や一般の方も参加可能です（総会は会員のみ参加可能）。
※研究大会閉会後、下記の通り懇親会を行います。お申し込みは当日承ります。
会　場：イタリアンレストラン・オルタナ（北大正門前）（予定）
会　費：4,000円（予定）

2018年度　遺跡調査報告会の実施報告

今年度の遺跡調査報告会は、2018年12月８日（土）、北海道大学学術交流会館にて開催されました。2018年に道内で行われた発掘調査は65件です。今回はその一部である９遺跡と、2018年９月６日に発生した北海道胆振東部地震の被害とその対応について報告されました。

冒頭では上記地震に関連して、日胆地区博物館等連絡協議会が実施した被災状況の調査とその公開活動が報告され、安平町への支援活動の中で確認された施設や資料の損壊・破損状況の一部が報告されました。

恵庭市のユカンボシＥ２遺跡では、縄文時代の竪穴住居や複数時期の土坑、焼土、柱穴と約３万点の土器・石器が検出されました。伊達市のカムイタプコプ下遺跡では1640-1663年の火山灰層に上下して、

チセ跡の可能性のある柱穴、貝塚、焼土、墓跡が検出されました。遠軽町のタチカルシュナイ遺跡M―Ⅰ地点では、縄文草創期の石器群に無文土器片が伴う可能性が指摘されました。北見市の吉井沢遺跡では旧石器時代の忍路子型細石刃石器群に伴う可能性のある、被熱石器や炭化物、焼土ブロックが検出されました。湧別町のシブツノナイ竪穴住居跡は約４万平米の範囲に530基の竪穴が分布し、縄文時代から続縄文時代、擦文文化期を含み、時期ごとに竪穴の分布範囲が異なる可能性が報告されました。斜里町カモイベツ遺跡では後北C2D期の小さな住居と「焼砂」やフレイクチップの集中、オホーツク文化刻文期の竪穴と集石土坑が、また近世（18中～19世紀）の貝・骨ブロック、鎌、骨角器、集石などが検出されました。白老町のポロト３遺跡では縄文時代中期半ばから後期を中心とする土器類と、石器製作跡と考えられる黒曜石集中、礫集中、焼土が検出されました。木古内町の幸連５遺跡は継続調査されている大規模遺跡で遺物出土数も多く、縄文前期後葉から後期前葉の多数の竪穴住居が重複して検出され、前期に構築された帯状の凹地の両側に竪穴住居や盛土などの遺構が継続的に構築されたことが報告されました。

また、当日は一般市民の方々も含め125名の来場があり、資料集も即日完売し、遺跡に対する道民の関心の高さが伺われました。発表者の方々には貴重な時間を割いてご準備頂きましたので、ここに重ねて感謝を申し上げます。

なお、報告会終了後には懇親会が催され、和やかな雰囲気の中で発表者の方々との情報交換と交流が行われました。次回も会員の方々には奮ってご参加いただけますようお願いします。

〔発表遺跡等〕
① 9.06北海道胆振東部地震の被害とその対応について（髙橋美鈴）
② 恵庭市　ユカンボシＥ２遺跡（鈴木将太）
③ 伊達市　カムイタプコプ下遺跡（富塚　龍・添田雄二）
④ 遠軽町　タチカルシュナイ遺跡
　北見市　吉井沢遺跡（夏木大吾）
⑤ 湧別町　シブノツナイ竪穴住居址・川西２遺跡（坂本尚史）
⑥ 斜里町　カモイベツ遺跡（阿部明義）
⑦ 白老町　ポロト３遺跡（山中文雄）
⑧ 木古内町　幸連５遺跡（福井淳一）

北海道胆振東部地震募金の結果報告

12月８日に開催された遺跡報告会で「北海道胆振東部地震復興の義援金」を募金していただいたところ、16,794円の義援金が集まりました。ご協力ありがとうございました。

斎藤　傑さんの逝去

斎藤　傑（まさる）さん（旭川市在住）は病気療養中のところ薬石効なく、去る１月17日に逝去されました（享年79歳）。

斎藤さんは1940年８月に旭川市で誕生、札幌西高等学校郷土研究部で考古学知識の見聞を広めると共に、吉崎　昌一・元北大教授（当時・北大理学部研究生）の薫陶を受けました。1960年４月、明治大学文学部史学地理学科考古学専攻に入学、擦文文化研究が卒論テーマでした。同大学卒業後、市立旭川郷土博物館に勤務、旭川市秘書室・旭川市教育委員会社会教育課を経て中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館初代館長に就任、2001年３月に同館長を最後として約35年にわたる旭川市役所勤務を終えられました。

同年５月、斎藤さんは佐藤一夫さん（元苫小牧市博物館長）と共に、本会に運営資金の助成をされました（本会積立金として計上されています）。

斎藤さんの卒論の一部は「擦文文化の初頭の問題」と題して、『古代文化』第19巻第５号（1967）＜北海道古代史特輯Ⅱ＞に発表、北大式土器と土師器との関連性を述べられています。当時の擦文土器編年研究は未確定であり、斎藤さんの同論文を含む擦文文化研究は、石附喜三男・元札幌大学教授による関係業績と共に高く評価されています。少年・少女向け北海道考古学入門書も執筆されています（『北海道考古学教室』３：縄文人の生活　一光社　1985）。

市立旭川郷土博物館・旭川市教育委員会在職中には、　旭ケ丘遺跡・嵐山遺跡はじめ旭川市内・東神楽町及び松前町等の発掘調査を担当して各発掘報告書を作成、旭川考古学研究史もまとめられています（「旭川における考古学研究のあゆみ」全４回『旭川研究・昔と今』第６～９号（1994～1996））。加えて勤務先と各発掘調査を通じて、若手考古学研究者育成を実践されました。美術館長時代から北海道教育大学旭川校非常勤講師（博物館学）に任用、旭川市北門中学校構内の＜知里幸恵文学碑＞建立に尽力されました。

旭川市役所退職後は北海道文化財保護審議会委員・北海道教育大学生涯学習教育研究センター客員教授・旭川市史編集委員・三浦綾子記念文学館副館長・旭川学研究会事務局長等を歴任、文化財保護・旭川の文学・歴史や北海道文化等の研究調査の多彩な活動をされ、考古学関係以外の多数の出版活動を行いました（『旭川叢書25：あさひかわと彫刻』（旭川市中央図書館編　旭川振興公社　1999）の執筆、著書『旭川市彫刻美術館日誌』（私家版　2007）、『高野斗志美著作目録』（旭川学研究会　2012）の編纂、著書『北海道を考える』（北海道出版企画センター2014）等）

以上のごとく、斎藤さんは考古学研究及び北海道・旭川の文化研究を実践され、各分野の発展充実に貢献されました。ここに斎藤さんの考古学研究をはじめ多彩な諸活動に敬意を表し、併せて本会運営資金助成に御礼を申し上げ、謹んでご冥福をお祈り致します。　（出村　文理・記）

事　務　連　絡

総会出欠票返信のお願い

2019年度北海道考古学会総会の開催にあたり、出欠確認と運営委員推薦のための返信葉書を同封しております。各項目にご記入の上、必ずご返信くださいますようお願いいたします（４月10日事務局必着）。

住所・所属変更について

住所・所属に変更のある会員は、速やかに事務局にご連絡くださいますようお願いいたします。ご連絡のない場合、刊行物の発送が滞ることがありますのでご注意願います。総会出欠票に新住所・所属を記載していただく場合は、変更のある旨を欄外に明記してください。

月例研究会のお知らせ

【今後の予定】

【３月例会】

○日　時：３月16日（土）15：00～

○会　場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟１階　102号教室

○発表者：村本　周三　氏

○題　目：「北海道における土器付着炭化物安定同位体分析の現状」

会員の皆様で、月例研究会での発表を希望される方は、北海道考古学会事務局までご一報ください（事務局メールアドレス：hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp）。開催日時等を調整させていただきます。開催が決まりましたら、ホームページでお知らせします。

会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年度内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費を納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358　　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　（学生）3,500円

【会費未納会員への対応】
会費の未納がある会員は速やかに学会事務局までご連絡いただき、会費を納入してください。なお、場合により運営委員会から直接ご連絡を差し上げることがありますのでご了承ください。

北海道考古学会だより　　第123号　　2019年３月10日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http://haa.main.jp/cms/）
事務局：〒059-0014　登別市富士町７丁目33-1
登別市教育委員会　社会教育グループ気付　北海道考古学会事務局
TEL　：(0143)88-1129
FAX　：(0143)85-9744
E-mail：hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp
印　刷　北海道図書企画　　(011)668-1131